



編集・発行

● 宮崎県立図書館

〒880-0031 宮崎市船塚

3丁目210番地1

TEL 0985-29-2911

FAX 0985-29-2491

ホームページ

<http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>

忘れてはならないこと



宮崎県立図書館

館長 伊藤 惇一

8月28日付けの異動で、皆さまに大変ご面倒をおかけいたしました。皆様の温かいご配慮をいただき着任することができました。心から感謝申し上げます。

夏休みも終わろうとしている着任の日でしたが、多くの子どもたち、そしてお母さん、お父さんたちの本を読んでいる顔を見て、本当に嬉しく、また、図書館の役割の重さを肌で感じたときでもありました。

早速、県立図書館の運営方針を見せてもらいました。そこには、「生涯学習を支援する中核施設の一つとして、さらには県内の情報拠点として県民の多様化・高度化した学習・情報・娯楽ニーズに対応するため、広範囲で的確な資料の収集・整理及び保存に努め、その利用促進を図る。また、——（略）」とありました。

この運営方針を読み、館内の蔵書・資料を見て、「ふっ」と頭の中を過ぎったのは、宮崎県史編纂のことでした。それは、昭和58年の宮崎県置県100年の記念事業として松形前知事が発表され、その後16年間で、他県に例のないスピードで素晴らしい宮崎県史が計画どおり完成したのですが、「この膨大な量の取り纏めに当たっては、県立図書館のしっかり

した信頼できる学術的な資料と過去の研究の蓄積によるところが最も大きいものでした。」との、当時の県史編纂室長永井先生のお話を思い出したからでした。

多くの人の「知りたい」「勉強したい」という願いに応え、県立図書館が出来る限りのサービスを提供することは、その旨とするところですが、これを、過去から現在に亘り支えてきた人、支えている人の目に見えない凄まじさを本当に実感した思いでした。

2年前の牛のBSEの発生以来、食の安全性のこと等から「地産地消」の言葉がよく聞かれるようになりました。農水省の統計で食料消費の現状を調べるとその約30パーセントが家庭以外での外食等で、しかも食品の廃棄や食べ残しは、世帯で約8パーセント、結婚披露宴約24パーセント、宴会約16パーセント等となっています。そして、この食べ残し等は「ごみ」となって、さらにお金をかけて処分しているわけです。私たちが飽食のあまり「私たちの命を支えているのは、食べ物である」ということ自体をどこかに忘れて来ているのではないのでしょうか。

図書館行政においても、新たなメディアの開発等による従来にはない多様で大量の情報が現出しています。これに流されることなく、利用者がその利用者に必要とする資料や情報との“たしかな出会い”をしっかりとコーディネートしなくてはなりません。

そのためには、これまでに蓄えてきた記憶と知識を行政と利用者が共有し、全ての利用者が、その共通の材料をもとに自らが考え、理解する場としての「忘れもの」のない県立図書館を目指さなければならないと思っています。

目次

[連載]

- ・ うちの図書館②〇 5
- ・ やまびこステーション紹介② 6
- ・ 読書団体紹介②〇 6
- ・ レファレンスコーナー 7

みどりの
図書館

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



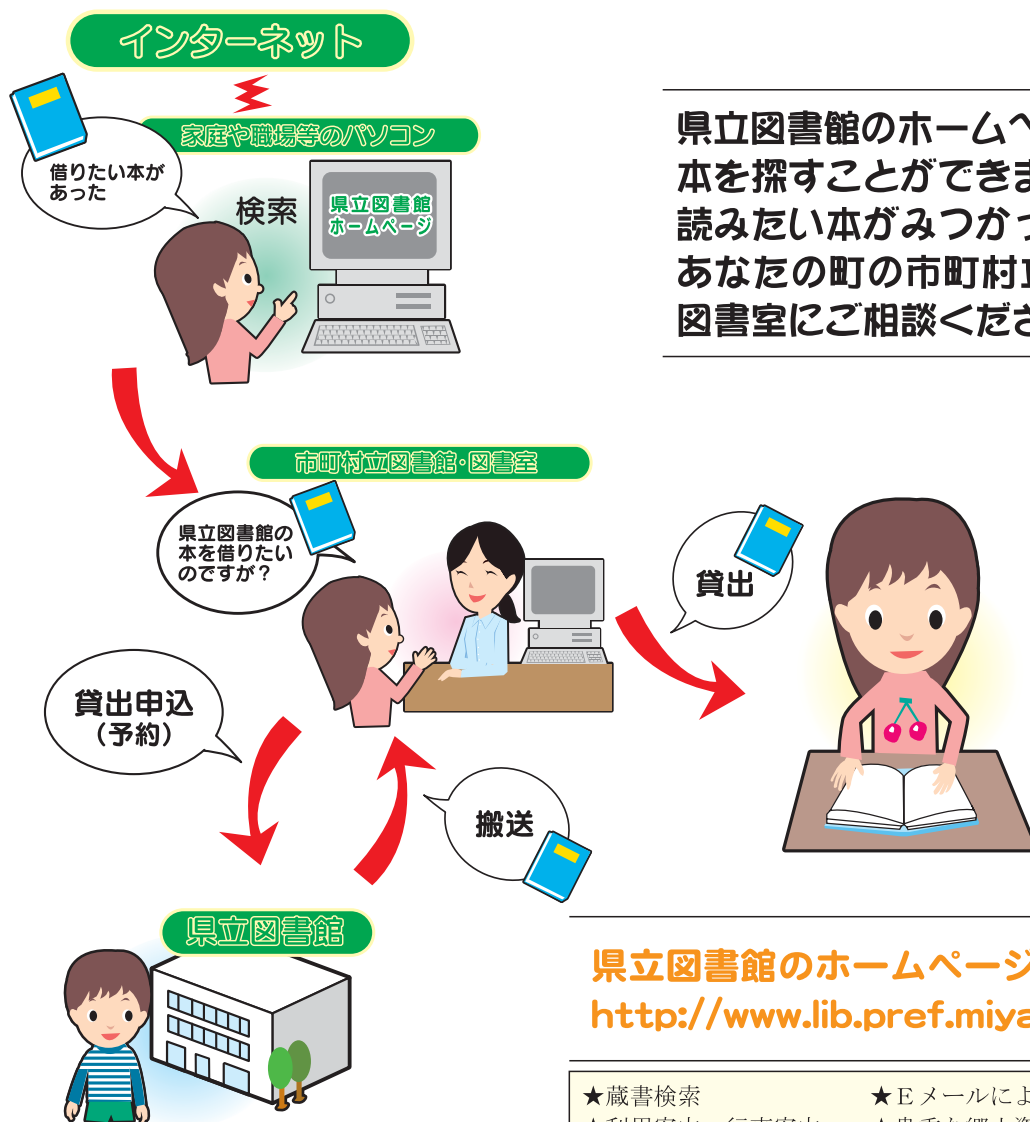
あなたの町から 県立図書館の本が利用できます

「マイラインシステム」をご存じですか

マイラインとは、県立図書館コンピュータ・ネットワークシステムの通称で県立図書館の図書を遠隔地に住んでおられる方に利用していただくための制度です。

読みたい本を自宅や市町村立図書館等のパソコンを使って検索し、最寄りの市町村立図書館に申し込んでください。

マイライン車または宅配便により図書を申し込まれた市町村立図書館等に配送しますので、その窓口で借りることができます。



県立図書館のホームページ
<http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>

- ★蔵書検索
- ★Eメールによるレファレンス
- ★利用案内・行事案内
- ★貴重な郷土資料の紹介
- ★県内公共図書館・大学図書館等の紹介

夏休みおはなし会開催！

夏休み期間中の8月2日（土）、8月5日（火）に「おとなのためのおはなし会」「こどものためのおはなし会」を開催しました。

ボランティアグループ「おはなしの木」の皆さんによるおはなしで、二つの会とも盛況でした。

「おとなのためのおはなし会」には、一般の方以外に小中学校関係者にも案内したところ、串間市など遠方からの参加者もあり、学校関係者の関心の高さも伺えました。

また、一般の方にも「おとなのため」とあるのが嬉しいなど、好評でした。

「こどものためのおはなし会」も、5名の語り手のかたりに、こどもたちは知らず知らずにおはなしの世界へ引き込まれていき、語り手・聞き手一体となった素敵な空間が生まれました。



みどりの図書館フェスタ開催！

～ 夢・感動・ふれあい ～

県立図書館では、11月2日（日）・3日（月）の2日間、子ども映写会やおはなし、記念講演などいろいろなイベントを実施します。ぜひ、ご来場ください。

なお、当日は、県総合文化公園一帯で文化フェスティバルも開催されます。

11月2日（日）	11月3日（月）
13：30～15：00 シネマ劇場「禁じられた遊び」	10：00～12：00 読み聞かせ指導者研修会 「乳幼児期における読み聞かせの意義」 講師：渡辺順子 氏 10：30～11：50 図書館見学ツアー (事前申込要) 13：30～15：00 記念講演 「子どもの心を育てる絵本の世界」 講師：渡辺順子 氏 13：30～15：00 子ども映写会 「おおきなかぶ」「いのりの手」 「海底2万マイル」 14：30～16：15 おはなしのへや
11月2日・3日（両日）	
みどりの図書展 生誕100年先達詩人の作品等展示 げんきげんき芸術祭作品展示	



視聴覚事業で生き生きと 生涯学習も！

◇図書館子ども映写会◇

図書館子ども映写会には、幼児や小学生のみなさんとその保護者の方々に参加していただいています。子どもたちの夢を育くむ作品、人権教育や安全教育、民話等の感動的な作品を中心に上映をしています。

参加者の感想から

- ・これから海に出かけることも多くなるので、親の方も勉強になりました。（7月：「水の事故と安全」を見て）
- ・こむぎいろの天使を見て、友達っていいなと思いました。（8月）

後期の上映予定

日 時	曜	作 品 名
10月11日 13：30～	土	ランボーのうそ 食べ残しはどうなるの？ ありがとうハーナ
11月3日 13：30～	月	おおきなかぶ いのりの手 海底2万マイル
12月13日 13：30～	土	世界絵本箱から3話 神様がくれたクリスマスツリー 海のコウモリ
1月10日 13：30～	土	ちびまる子ちゃんの火の用心 金色のクジラ お母さん、なかなかい
2月14日 13：30～	土	むくはとじゅうの名犬物語 木龍うるし とも子ちゃんとわたし

◇緑陰コンサート◇

日 時	曜	内容・演奏解説
10月1日 13：30～	水	フルートとピアノの演奏 〔北村美保、銀島弓〕
12月20日 13：30～	土	バイオリンとピアノの演奏 〔永野真一、永野千恵〕

◇図書館シネマ劇場◇

シネマ劇場では、人の生き方を考える感動的な名作映画や時代の要請に応える教育的な映画を上映しています。1回平均約80名の方々が参加されています。

参加者の感想から

- ・毎月1度、リバイバル映画や知的好奇心をくすぐる映画に会える事を楽しみにしています。（7月）
- ・終戦記念日にふさわしい映画をありがとうございました。若い世代の人々に多く見て欲しいですね。原爆がどんなに悲惨なものか次の世代の人々にわかってほしいです。（8月）

後期の上映予定

日 時	曜	作 品 名
10月17日 13：30～	金	稚内発学び座 ソーランの歌 が聞こえる
11月2日 13：30～	日	禁じられた遊び 1952年フランス作品
12月19日 13：30～	金	中村汀女 人権啓発映画 虚構
1月16日 13：30～	金	自転車泥棒 1948年イタリア作品
2月20日 13：30～	金	キュリー夫妻 その愛と情熱 1996年フランス作品

◇視聴覚資料・機器の利用案内◇

県立図書館では、各種の団体及び公共の機関に学校教育や生涯学習に関する16ミリフィルム、ビデオソフトなどの視聴覚教材、また、ビデオ・データプロジェクター、OHPなどの視聴覚機器の貸出を行っています。なお、個人への貸出は行っておりません。

- ・利用日時 月曜～金曜 9：00～17：00
- ・貸出期間 10日間
- ・貸出数 視聴覚教材…5本まで
視聴覚機器…各機種1台
- ・利用方法 視聴覚用貸出利用券交付申請書による
団体登録が必要です。

問い合わせ：県立図書館普及課視聴覚係 TEL 0985-29-2956

このコーナーでは、県内の様々な図書館を紹介していきます。
今回は三股町立図書館です。

三股町立図書館

〒889-1901 北諸県郡三股町大字樺山3406番地8
TEL (0986)51-3200・FAX (0986)51-3751

三股町は都城盆地の東南部に位置し、東西18km、南北に12.7kmの東西に細長い町です。町の人口は約24,000人で、都城市のベッドタウンとして、少しずつですが増えてきています。

図書館は、文化会館との複合施設で、町のほぼ中央部に位置しています。図書館の広さは1,584㎡あり、平成14年度末の統計で一般図書が約44,000冊、児童図書は約25,000冊、A V資料は約4,300点所蔵し、雑誌は172種類購入しています。

図書館のホームページから資料を検索することができますので、是非一度御覧ください。平成13年11月3日のオープン以来これまでの貸出数は、A V資料も含めて423,755点（一日平均約1,106点）、入館者は、301,853人（同じく約800人）となっています。

館外貸出は、町内だけでなく、都城市や北諸県郡、鹿児島県末吉町、財部町在住の方にも行っています。

館内の様子は、柱が1本もない開放的な明るい空間が広がっており、書架や机等は温かみのある木製で、高さも低くおさえて配置しています。館内入口から一番奥の壁書架まで約48メートルあり、入口近くに児童コーナーを、奥に調べもののコーナーを配置し、話し声などが気にならないよう配慮しています。その他、一般コーナー、ブラウジングコーナー、A Vコーナーなどを設けています。

また、暮らしと関わりの深い料理、旅行、ガーデニング、健康、パソコン、子育て、などの本を集めて置いた「暮らしと生活のコーナー」は人気があります。インターネットのできる「インターネットコーナー」もよく利用されています。それから、映写会、研修会、学習室として活用できる多目的ルームがあります。ここでは、毎週水曜日の午前中、ボランティアの人たちが、幼児を対象に「読み聞かせ」を行っています。

図書館の事業としては、例年読書感想文感想画コンクールを実施しており、その表彰の際には、文化会館のホールで、俳優さんによる感想文の朗読や、お芝居の上演などのイベントを開催しています。今後も文化会館との複合施設の利点を生かした新しい取り組みを計画していきたいと思っています。



開館時間 【火・水・金・土】 10:00～18:00
【木・日】 10:00～20:30

休館日 月曜日
国民の祝日
毎月第三水曜日

やまびこステーション紹介

移動図書館車「やまびこ」は、自動車文庫（25市町村）・へき地仲よし子ども図書館（21校）・PTA文庫（11校）の3つの事業を14コースの巡回計画で年3回配本しています。

南郷村立水清谷小学校

〒883-0301 東臼杵郡南郷村大字水清谷180番地
TEL (0982) 59-0080/FAX (0982) 59-0094

私たちの学校は、日向市から西へ約40km入った南郷村という山村にあり、「水清谷」は、名前の通り水が大変きれいで自然豊かなところ。1・2年、3・4年、5・6年の完全複式学級で、全校児童16名の小規模校です。

子どもたちは、みんな明るく素直で、とても仲良しです。いろいろな行事や活動も全校児童で取り組んでいます。

その中のひとつに、俳句作りがあります。毎週1回木曜日の朝の「俳句タイム」では、みんなそれぞれ、自分の感じたことや思ったことを5・7・5の短い言葉の中に、自由に上手に表現しています。この時間は、みんなの大好きな時間です。

そして、「俳句タイム」と同じくらい楽しみにしているのが、「朝の読書の時間」です。この時間は、月、水、金の週3回、朝の活動の時間にあります。このときに、『やまびこ文庫』を楽しみに読んでいます。私たちの学校では、それぞれの学級に、自分たちで選んだ『やまびこ文庫』を置いています。ですから、いつでも読みたいときに読むことができます。

ます。

また、気候のよい季節には、運動場にある野外テーブルに出て、読書を楽しむこともあります。涼しい木陰で爽やかな風に吹かれての読書は、本の世界に没頭できて、何よりも楽しいひと時です。これからも、このような読書の時間を大切に、読書を楽しんでいきたいと思っています。早く、次の『やまびこ文庫』が来ることを楽しみに待っています。



読書団体紹介

パオパオひろば

県立図書館では、読書団体の育成と読書普及活動の推進を図るため、貸出文庫（100冊まで自由に選本）と10冊文庫（同じ本を10冊セット）の事業を実施しています。

今から10年前のことです。私たちは皆同じ団地に住んでいて、毎週近所の幼児サークルに参加するのが楽しみでした。いろいろな絵本を読んでもらったり、面白い本を紹介してもらったり……。

そして、いつの間にか参加する側から活動する側へと変わっていき、子どもたちも未就学児だったこともあり、同じくらいの子どもたちを集めて『パオパオひろば』というサークル名で活動を始めました。

主に絵本の読み聞かせ、そしてその絵本どおりのことを皆で体験してみるという企画をして楽しみました。例えば、『しろくまちゃんのほっとけーき』を読んでホットケーキを作ったり、『やさいでぺったん』を読んで野菜版画をしたり、『めっくら もっくら どおん どん』を読んで野山をかけまわり鬼ごっこをしたり、と家の中ではなかなか出来ないことをして遊びました。そして、すぐに家にある本だけでは物足りなくなり、先輩方に貸出文庫を紹介してもらいました。

毎週1回車に本を載せ、集会所へ行き本を貸し出す。それ以外の日も毎日のように集まり、次のサークルの計画を練ったり、勉強会をしたりと、子どもを抱っこしながらの忙しい毎日でしたが、どれも楽しい思い出です。

子どもたちが小学校に上がってからは、学校の朝自習の読み聞かせに参加させてもらい、たくさんの

児童たちとの出会いがありました。近所で見知らぬ子に声をかけられたり、『あの本面白かったよ』という声を聞くと嬉しかったものです。

現在は、中学生や高校生になった子どもたちに加え、新たに2人の赤ちゃんが誕生し一段とにぎやかになり、借りる本も幅広くなりました。私たちもそれぞれ仕事を始め、メンバー全員顔を合わせることができるようになりました。これからも背伸びせず、自分たちのリズムで貸出文庫を続けていけたらと思っています。

パオパオひろば 代表 甲斐 律子



レファレンスコーナー（閲覧室から）

参考相談係では宮崎県外の方から時々郷土に関する様々な質問をお受けしています。

先日宮崎市出身の方から次のようなメールをいただきました。

「故郷を離れて40年以上になります。子供の頃、泳いだり釣りをした大淀川や橘橋の中央から見た霧島連山に沈む夕日は忘れがたいものです。大淀川と橘橋の命名の由来について教えてください。」というご質問でした。

まず宮崎県大百科事典で調べてみましたが、大淀川の名前の由来については、何も書かれていません。次に「大淀川の歴史」（建設省宮崎工事事務所発行）を見てみました。

根拠となる史料は何もなくて現状では推測でしかわからないと書かれています。それによると次のような記述がありました。

一説には小戸が大淀になま訛ったものだとする説です。『古事記』の「上つ巻」には、伊邪那美命を追いかけで行った伊邪那岐命が黄泉の国から帰って来て、命は「自分は随分ときたない国に行ってきた。禊をしようと思う」と仰せられて、筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原においでになり、「上流の方（上つ瀬）は瀬が速い。下流の方（下つ瀬）は瀬が遅い。」と仰せられて、真ん中の瀬（中つ瀬）に下りて身をお洗いになったがその時多くの神がお生まれになったとあります。この小門が小戸であり、上つ瀬、中つ瀬、下つ瀬が三ノ瀬です。「筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原」がどこであるかについては、歴史学的には固定されていないようですが、宮崎には同じような地名があり、そこには三ノ瀬がありそうな大きな川があつて、日向の人たちは大淀川の下流こそは「筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原」だと信じてきたようです。「日本書紀」にも同じような内容が書かれています。（建設省宮崎工事事務所発行「大淀川の歴史」より）



1888年（明治21）架けられた橘橋

～参考文献～

宮崎県大百科事典（宮崎日々新聞社刊）

このように係では身近な疑問や質問に対して、資料の紹介をしたり本を探すお手伝いをしていますが、普段何気なく通っているふるさとの橋や川の名前の由来などを調べてみるのも楽しいものです。



現在の橘橋

【レファレンス：reference】とは英語で参照・参考・調査という意味で、調査・研究に必要な資料を紹介したり、本を探すお手伝いや利用者の質問にお答えする仕事です。

図書館雑感



児童図書室からこんにちは！

こども室には、毎日大勢の子ども、親子連れが本との出会いを求めて訪れてきます。その様子を見てみると、子どもの活字離れが問題となっていることなど、どこかよその世界のこのようにも思えます。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年施行され、平成14年8月には、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。そして、現在宮崎県においては「宮崎県子ども読書活動推進計画」を策定中です。

国を挙げて子どもの読書活動を推進していくという、大きな流れの中で、最近特に思うのが、本と子どもたちとを結ぶ立場にある、私たち大人のことです。

子どもが本と出会うのはどこでしょう。家庭、保育園、幼稚園、児童館、学校、近所の文庫、図書館等色々ありますが、そのどこにでも必要なのが、本を子どもたちに手渡す人の存在です。

私たちは皆、子どもに一生の心の糧となる本と出会って欲しい、本により、想像の翼を広げ、人生を深く知り、生きる知恵を得、のびのびと育って欲しい、と願っています。

ところで、その私たち大人が、現在どれだけ心にゆとりを持って本を読んでいるのでしょうか。子どもは大人が本に親しむ姿を通じて、読書の楽しさを感じ取っていきます。子どもに本を与えるだけでなく、私たち大人が本を読み、知識を広げ、心を豊かにすること、また、子どもと本を広げ共に楽しむこと、子どもの好きな本、自分の好きな本について子どもと語り合うこと、そんな時間や空間の大切さを、図書館を訪れる方々を見ると感じます。

子どものための読書環境を整えるということは、私たち大人が読書の喜びや意義を考えることでもあります。

図書館が、その中で皆さんにどのようなことができるのか、考え、できることから始めていきたいと思う今日この頃です。



体験・調べ学習・見学者一覧

月・日	団 体 名	人数
5月9日	清武町立大久保小学校 3年生	63
9日	宮崎大学附属中学校 2、3年生	12
16日	宮崎市立瓜生野小学校 2年生	38
21日	宮崎市立池内小学校 3年生	65
22日	宮崎市立大宮中学校 3年生	230
22日	高崎町立高崎麓小学校 3、4年生	29
23日	野の花幼稚園 5、6才児	51
6月12日	野尻町立紙屋中学校 3年生	19
13日	佐土原町立那珂小学校 6年生	52
17日	宮崎市立住吉中学校 3年生	17
19日	宮崎市立宮崎西中学校 3年生	24
24日	佐土原町立広瀬中学校 3年生	27
7月2日	西都市立都都郡中学校 1年生	6
8日	宮崎市立赤江東中学校	5
11日	宮崎市図書館部会 (高校)	150
17日	野尻町立紙屋中学校 1年生	19
22日	宮崎女子短期大学実習生 (～7.31)	6
22日	図書館情報大学実習生 (～8.8)	2
8月12日	県立宮崎南高等学校 1年生	3
20日	宮崎市立宮崎西中学校 2年生 (～22)	5



外国人から見た 県立図書館

Miyazaki Prefectural
Library

宮崎県立宮崎南高等学校 A L T
ジェネヴェイヴェ・ソーヴェ



県立図書館を初訪問する際、何を頭に描いて行ったらいいのか、外国人の私には、あまり見当が付きませんでした。

最初に私の胸を打ったことは、図書館周辺の静寂な雰囲気と建物が、周囲の景観に見事に溶け込んでいることでした。あらゆる年齢層の人々や国籍の違う人々が、暖かな夏の日差しを浴びて、のんびりするために集まることのできる場所のように思われました。

本を読んだり両親と遊んでいる子どもや、フリスビーをしている10代の若者たちがいましたが、ほとんどの人は、木陰に座り、心ゆくまで読書していました。

日本語がほとんどわからないために、私の訪問は手持ちぶさたになるのではないかと心配していましたが、幅広い分野の英語の本や世界の地理に関する雑誌まで揃えてあるのには驚きました。

新聞閲覧室は、大変快適で、私の国のニュースをたっぷり読むことが出来ました。いろいろなコーナーで、豊富な蔵書を活用している人々の姿に感動しました。学校でのテストに備えて勉強をしている南高校の生徒達がいて、私が今教えている生徒にも偶然ですが会いました。

県立文化公園には、美術館やコンサートホールもあり、図書館を訪れると、これらの建物の卓越したデザインに圧倒されます。ここは、地元の人々や外国人にとって、日曜日の午後をゆったり過ごし、ひよっとしたら新しい友人を作るのにふさわしい場所かも知れません。

要するに宮崎県立図書館は、ただ本を読むことが、出来るだけでなく、注目すべき文化体験の場でもあると思います。

Miyazaki Prefectural Library

As a foreigner I wasn't sure what to expect on my first visit to the Miyazaki Prefectural Library. What first struck me was the serene atmosphere and how harmoniously the architecture blended into its environment. It felt like a place where people of all ages and nationalities could gather to bask in the warm summer air and to escape the fast pace of city life. There were children reading and playing games with their parents, teenagers tossing a Frisbee but most were content simply to sit and read books beneath a shady tree. Because of my limited knowledge of the Japanese language, I feared my visit would leave me empty handed. Much to my surprise, there was a wide selection of English books and magazines that even included National Geographic. The newspaper reading room was quite comfortable and I thoroughly enjoyed catching up on news from my home country. I was impressed with the fact that there were people in every section, putting the library's wealth of resources to good use. I even bumped into a few of my students from Minami Koko who were preparing for upcoming exams. The Prefectural Culture Park is also home to the art museum and concert hall. When visiting the library, one cannot help but appreciate the inspired design of these buildings. This is a wonderful place for locals and foreigners to relax on a Sunday afternoon and perhaps even make new friends. In short, the Miyazaki Prefectural Library is not only a place where one can read a book; it is a cultural experience that is not to be missed.

Genevieve Sauve

CALENDAR 県立図書館10～12月の休館日

10月

6 13 20
27

11月

10 17 24

※11月3日は開館

12月

1 8 15
22 23 28
29 30 31